

のたるんは11月で満25歳。横須賀に市民活動の拠点ができてから25年になります。

市民活動はこれからもいっそうみんなの生活にはかせないものになっていくんじゃないかって思います。そんなみなさんの活動を応援していきます！

サポセン

25

11月3日（日曜日）

25周年イベントやります！

11月4日（月曜日・祝日）

のたるん秋号

(((すかっこの市民活動情報)))

のたろん 100号

——情報誌のたろん 100号と聞いていかがですか？ **編集長に聞きました**

そうですね、まず 25 周年できっちり 100 号になるということが、純粹にすごいなと思います。年 4 回、季節ごとに発行される冊子なので、25 年間一度も休んでいないことに改めて感心しました。

——公募で決まった「のたろん」という名前についてどう思いますか？

not alone 「ひとりじゃないよ」というフレーズに由来するということを説明すると、皆さん一様に「なるほど～」とおっしゃいます。「not alone」という英語のフレーズを、「のたろん」というかわいい名前に読み替えたアイデアを含め、この愛称は秀逸だと思います。考えた人は、すごいですよね。

ただ、「のたろん」というひらがなの名前をすんなり読んでもらえることはあまりなく、「のろたん」「のんたろう」などと呼ばれることもしばしば。「のたろん」が正しく呼ばれるになるには、地域でもっと市民活動が活発になり、サポートセンターの認知度が上がる必要があるのかなと感じています。

——サポートセンターにとって情報誌のたろんってどんな存在ですか？

イベント情報を伝えるだけではなくて、サポセンがその時に伝えたい雑多な情報を発信する冊子です。サポセンがオープンして 25 年間、その頃に何があったのか誰がいたのか、そういう記録としても大切なものだと感じています。

これからも、情報誌のたろんはイベントなど伝えたい事を載せるだけの冊子ではなく、市民活動サポートセンターの歴史を記録して残していくものとして編集していきたいですね。

..... **編集ボランティアのことば**

他の季刊誌ではあまり見ないスタイルで続いていて、情報誌に関わっているスタッフ・ボランティアのひとつの文化だと思います。「ひと」の連載を通じて感じるのは多様性です。市民活動を始めるのには決まったルートがなく、新人の気持ちで活動を始めの方が活躍されている印象があります。

100号の歴史の四分の一に関わらせて頂いていますが、あっという間でした。この分なら 200 号くらいまで参加できるんじゃないかなという気がしています。実は甘党錦鯉のタイトルは私が決めたのではなく、誰かの謎の力によってつけられたものです。



情報誌は手に取ってもらわないと意味がなくなってしまうので、怒られないギリギリでふざけた言葉で楽しい雰囲気を出せたらいいなと思っています。イメージは小学校の休み時間。一番のお気に入り第 69 号の表紙です是非！

せつなくなったり、しょんぼりしたり、笑っちゃったり、ムカつきたり、ときどき走り出したくなったり、人生はニャンとも忙しい(ΦωΦ)。振り返れば、25 年なんて年月も「ありゃ？」っていう間なんですよねー。これからもいろいろやりましょう！





～市民活動を支える人たち～

こあじろの森くらぶ 宮本 美織さん

ちょっと早口で、言語明瞭。言葉の端には優しさの滲む、「こあじろの森くらぶ」宮本さんに、お話を伺った。

終戦直後の 1946 年、三浦市上宮田で生まれる。小学校に入る頃には、横須賀市公郷、林と父の仕事に合わせて引っ越した。

放課後は、桑の実やびわを取りに行ったり、ドッジボールをやったり、自然の中で遊んでいたりといた野生児だったという。

同級生に、難聴を教師に気づかれずにお地藏さんと呼ばれている子がいた。いつか、みんなが授業のわかるような教師になりたいと思った。

教師の夢と学費の安さから、現横浜国立大学教育学部に進学。宮本さんは平岡 敏夫先生の近代文学の授業が好きだった。

高山植物が好き、高校のとき理科の先生が尾瀬に行きなさいと話していたのと、山好きだった小学校の友達に偶然再会したことから、二人で尾瀬旅行を思い立つ。残雪残る八丁湯、加仁湯からのルートなど、春、夏、秋と尾瀬を訪れた。そこでは、環境保全活動も学んだ。ビジターセンターがあって、河童の涙（ガラス片が川の流れて磨かれたもの）が売られていた。「人が守らなくちゃいけないところがある」と思った。

教員採用試験を、盲腸炎で受けられず。横浜で臨時採用で 3 年勤めた後、生まれ故郷の三浦市で新設校ができると聞いて応募、上宮田小学校をはじめ 4 校の小学校で定年まで勤め、再任用で 3 年理科専科をやった。

尾瀬と一緒にいった友達夫妻の紹介もあり、丹沢自然保護協会に入る。「森の学校」で子どもと一緒にカ

ワゲラを集めたり、クマ剥ぎのあとを見せてもらったりした。

丹沢自然保護協会のバス旅行の企画に、「素人自然保護の旅」

があった、そこで会った人に、三浦半島自然保護の会のことを聞いて、柴田敏隆先生と出会い、三浦半島のいろいろなところに連れて行ってもらって様々なことを学んだ。小網代の自然から学ぶ会、小網代の森を守る会の設立に参加して、自然観察&クリーンの活動をしたり、県に訴えるアイデアを出したり、小網代の自然保護に尽力してきた。

「自然保護運動をやろうと思ってやってきたのではない、自然を見るのが楽しみだから……。小網代が、ゴルフ場になるよりは今のままがよい。誰がやると言っても他にやる人がいなければ、周りの人を誘って自分がやるしかないと思った」と話してくれた。

森に関わりあってから 30 年！小網代の森が現在の形になったのを契機として、宮本さんたちは「こあじろの森くらぶ」を立ち上げ、小網代の森を楽しむことにした。以前は自然のことに限っていたが、今は、歴史や文化、場所も小網代に限らない活動を行って 9 年になる。

「悠々自適で、幸せ人生。それぞれの仕事をやり終わった後、偶然の人の出会いがおもしろいと思えるようになった」インタビューの日も、午後から仲間と卓球。教師人生、自然保護人生、それぞれやり続けて、「今を楽しむ」姿が輝いていた。

(はこぎき)



団体紹介

団体名 こあじろの森くらぶ

アカテガニをはじめ多くの生き物が棲んでいる三浦市にある「小網代の森」で自然観察や自然と触れ合う文化的な企画を立て活動しています。年間 4～5 回で発行される会報誌『こあじろ森くらぶ通信』は、小網代の森で観察された季節の動植物や近隣の遺跡をめぐる企画の記録が記され、読み応えがあります。

「こあじろの森くらぶ」の設立は 2015 年ですが、前身は「小網代の森を守る会」「小網代の森と干潟を守る会」で、1980 年代から小網代の森を見守り続けています。

ホームページでは会報誌の
アーカイブも読めます！

こあじろの森くらぶ 検索





ねえねえ 100 号だし、沼ちゃんが知っている特別でホットな情報を何か教えてよー！



そうだなあ、100 号ならではの話題かあ。情報誌のたろんって実は第 1 号は別の名前で発行されていた！っていうのはどうかな



えーっ、そうなの！？なんでー？どんな名前ー？



あ、思ったより興味を持ってくれた。第 1 号の時は、サポートセンター通信っていう名前だったの。その第 1 号で愛称を募集してのたろんっていう名前が決まったの



そうだったのー！？第 1 号はめっちゃ普通の名前だったんだね！



ま、まあ、そうかもしれない



でもさ、のたろんってみんなが一生懸命考えて付けた名前の名前だったんだね。ほろりとしちゃう



みんなの願いが込められている名前だから、のたろんもみんなに愛され続けて欲しいな



のたろんの名前に負けないように、これからもいろんな人と仲良くなって、いろんな活動を応援していくね！



のたろん・・・こんなに立派になって



のたろんも言ってみれば、もう 25 歳みたいなものだから！おとなうさぎですよ



そっかあ、今度一緒にお酒でも飲もうか



えっ・・・。一緒に行くのはいいけど、のたろんオレンジジュースでいい？



甘党錦鯉 第 23 回 錦鯉は「耳」で「食」べる？

♪ 今日朝からゴハンを抱えて水槽の前で癒されちゃう♪
 ……ということで、皆様いかがお過ごしでしょうか。甘党です。今日はうちの愛錦鯉が生活している水槽前に来ております。
 で、何をしているかというところ、そう、錦鯉を飼っている人ならだれもが楽しみで仕方ない一大イベント、「餌やり」でございます。テンションがおかしくなってます、ハイ。
 うちでは餌を金属製の茶筒に入れていたのですが、この茶筒で「コンコン」という音をならすとあつという間に錦鯉が集まってきました。よく、「手をたたくと錦鯉ってホントに寄ってくるんですか？」という質問を受けますが、実際に音に反応して寄ってきますよ。うちの子たちは本当によくしつけられております（笑）
 とところで、皆さんは「錦鯉の耳」って見たことありますか？錦鯉だけではありませんが、魚類には人間でいう「耳たぶ（外耳）」はありません。なので、パッと見ただけだと「魚って音が聞こえないんじゃない？」と思うこともあるかもしれません。実は、魚類には「内耳」という器官があります。その内耳に向けて頭の骨がキャッチした音波振動を伝えたり、ウキブクロでキャッチした音波を体の中の器官で増幅して内耳まで伝えたりすることで音を認識しているようです。そのほかにも、「側線」という体の側面にある器官で音を感じ取ることもできているようです。魚って体の色々なところで音を感じる力を持っているんですね。
 「餌やり」は実際にやってみると、皆さんにも楽しんでいただけると思います。旅先などでも池の鯉に餌をやる体験ができる場所もありますので、機会があったらぜひ試してみてください。

それではまた次回お会いいたしましょう（小串滋彦）



***** サポセン topics トピックス

サポセンの館内マップを触図で作るプロジェクト

フワモコ触図マップ★好評開催中★

視覚障がい者のことを学んで、みんなの発想を形にする、月イチ全 6 回のプロジェクト『みんなで作ろう フワフワモコモコ？ サポセンの館内マップ』が 8 月から始まりました。来年 1 月の完成まで、みんなで学んで、みんなで意見を交換します。大好評の 8 月、9 月に続き、次回 10 月 12 日は横須賀市点訳奉仕会の関尾温さんと点字のさまざまなことを学べる時間を過ごします。お見逃しなく！

サポセンは、福祉、まちづくり、文化、環境、国際、災害救援など、あらゆる分野の市民活動をサポートする施設。通常 9 時から 22 時、土日も開館。印刷や打合せなどができます。

サポートセンターのホームページ「のたろん Web」は

「のたろん」で検索♪



情報誌「のたろん」秋号（通巻 100 号） 2024 年 10 月 1 日

発行 横須賀市市民活動サポートセンター

編集 指定管理者 特定非営利活動法人 YMC A コミュニティサポート

横須賀市本町 3-27（京浜急行汐入駅徒歩 1 分）

TEL 046-828-3130

FAX 046-828-3132

市民活動サポートセンターは、市民活動、ボランティア活動の打合せや作業、情報収集を行なう施設です。ご利用の際は受付にて利用票のご記入をお願いします。



編集ボランティア／はこざき・おぐし
 スタッフ／ぬまさき・のぎむら・みずたに